



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第39号

2009年5月1日

平成21年度年次総会研究発表・シンポジウム詳細決まる  
シンポジウムテーマは

「鎮守の森と再生 ～歴史的風致を高めるために～」

5月16日(土)・17日(日)に白山比咩神社で

総会および関連事業に参加ご希望の節は、準備の都合上、5月7日までにMail、FAX、郵便等でお知らせください。その際は、38号3ページの申込書をお使いいただくと便利です。  
なお、正会員で総会にご欠席の方は必ず委任状をお送りください。

	時間	時間・講師
5月16日(土)	11:00	金沢駅集合・出発(小松空港での乗車も可)
	12:00~	昼食(川魚料理を予定)
	13:00~16:30	白山比咩神社正式参拝の後、白山比咩神社社叢、樹木公園、チカモリ遺跡等を見学 金沢駅にて解散
	18:30~20:00	懇親会(希望者 1人4,000円) 於 ホテル キャッスルイン金沢
17日(日) 総会・研究発表・シンポジウム	8:30	金沢駅集合・出発
	9:30~10:15	年次総会
	10:20~12:15	研究発表 「御嶽の植物相についての民俗的研究」 木村 甫 「東アジアの鎮守の社とその持続 ～韓国と台湾、沖縄の比較を中心に」 李 春子 「ナラ枯れ後の社叢修復について」 第1回社叢イストラッカー・クラブ 研修成果報告
	13:00~13:30	特別講演 越の国の中になぜ加賀か? 社叢学会副理事長 上田 篤
	13:30~16:00 13:30~14:00 14:45~16:00	シンポジウム「鎮守の森と再生 ～歴史的風致を高めるために～」 基調講演「石川県の巨樹と社叢を守る意義」 石川県巨樹の会会長 濱野 一郎 パネルディスカッション パネリスト 鏑 隆弘: 金沢美術工芸大学准教授(風致景観から) 三浦敏夫: 石川県林業技術協会会長(森林文化から) 埴生雅章: 護国八幡宮(富山県小矢部市)宮司(神社から) 古池 博: 石川県自然史センター専務理事(自然・文化史から) 田中敏之: 石川県巨樹の会前会長(森林・林業から) コメンテータ 村上 貢: 夕日寺健民自然園園長 コーディネータ 林進: 社叢学会副理事長・大会実行委員長
	16:30	白山比咩神社出発(17:30ごろ金沢駅にて解散、小松空港下車も可)



## 淡路景観園芸学校のめざすもの

講師 石原 憲一郎（兵庫県立淡路景観園芸学校 校長）

コメンテーター 藺田 稔（社叢学会副理事長・京都大学名誉教授）

### 淡路景観園芸学校の設立の背景と経過

兵庫県は、日本の縮図と言われるほど多様な自然環境のもとで地域固有の歴史、文化、風土を活かした美しいまちづくり・地域づくりを推進している。中でも、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえた兵庫県独自の課税である「県民緑税」による災害に強い森づくりや都市緑化など、全国でも先進的な取り組みを行ってきたが、これらの政策を円滑に進めるためには、制度設計を行い、実践する専門家と、地域住民の参画と協働が不可欠である。こうした観点から、1994年に淡路園芸学校（仮称）の開設が決定された。翌年1月の阪神・淡路大震災で都市内の緑とオープンスペースの重要性が再認識されたこと、復旧・復興のまちづくりにおいても、防災やコミュニティ再生の観点から公園や緑の重要性が指摘され、また、仮設住宅等における被災者の心の支えに花や緑が大きな役割を果たしたことから、園芸療法教育の必要性も認識されたことから、震災によって開校が1年延期されたものの、99年4月には淡路景観園芸学校が開校した。その後、2002年には社会人、大学生向けの最新緑化技術研修コースや園芸療法課程が開設され、08年には県立大学専門職大学院（緑環境景観マネジメント研究科）が設置された。さらに今年4月には県立大学専門職大学院が開校する。

### 5つの機能

本校には下記の機能を果たすことが求められている。  
①人材育成機能＝景観園芸専門課程：1学年定員20人で2年間の全寮制課程、景観園芸専門研修（課題解決型・科目履修型）：1ヶ月～1年間で入寮も可、園芸療法課程：1学年定員15人で1年間の全寮制課程  
②生涯学習機能＝花と緑のまちづくり指導者養成講座：本科、体験（出前講座）、テーマコースにより花と緑の地域づくりを担う人材を育成、景観園芸専門講座：公園マネジメント、最新緑化技術等の習得  
③情報発信：キャンパスを全面公開し、観光地として観光誌「るるぶ」「まっふる」に掲載。年間2万5千人が来校している。  
④産業振興：ひょうご環境・緑化研究会（異業種交流会）や造園・園芸関連企業との共同調査を行い、淡路地域地場産業の活性化に取り組んでいる。  
⑤調査研究：学会等での学術発表の他、県内外自治体からの受託研究、タスクフォース型研究、在外研究、などを進め、年間2人の海外客員教授を招聘。

### 景観園芸とは

古来、人は自然との関わりの中で暮らし、豊かな文化を営んできた。現代の生活の中に人と自然の密接な関係を取り戻すために、我が国固有の文化を基礎に、これからの花と緑のまちづくりや景観のありようを考え、豊かな生活空間や都市環境を創造していく際に、造園や園芸、景観、環境、生態、建築、土木等、個別化・専門化してきた生活空間の形成に必要な様々な専

門分野の関係性を取り戻し、まちづくりを、経済性を優先するのではなく、自然と風土を見つめ直し、新しい社会における人々の暮らしのあり方を創造する文化的な行いとして位置づける新しい学際的分野。

### 設置形態と教員組織

学校教育法に基づかない教育研究機関で、兵庫県県土整備部公園緑地課の地方行政機関。運営経費は、県土整備部を通じて措置している。教員は、兵庫県立大学自然・環境科学研究所の教授、准教授等が専ら兼務として淡路景観園芸学校に常勤し、講義・演習を行う。

### 教育の目標

人と自然の共生という一貫した思想のもとに、花と緑による快適で安全な環境を創造するため、構想、デザイン、設計、建設、運営、住民との協働による参加型管理などの他、高齢者や障害者の植物によるケアなど、多様で行動的に活躍できる人材の育成を行う。

### 園芸療法 (Horticultural Therapy)

障害や社会的にハンディキャップを持つ人を対象に生きた植物を扱う園芸活動とその生産物を利用してリハビリテーションや生活の質の向上を目的とした療法で、効用としては、体を動かし、エネルギーの発散によるストレスの解消、植物を育てることによる注意力・集中力の涵養、達成感・満足感の獲得、作品を作ることによる思考力、想像力の向上（＝精神的効用）、基本的な身体機能の維持・改善、五感を刺激することによる知覚・認知機能、感覚統合機能の活性化（＝身体的効用）があげられる。

### 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科の新設について

近年、緑環境のストックの増大、幅広いマネジメント業務の必要性、管理機能を最大に発揮させるためのソフト展開などに対応した専門職業人の不足が指摘されてきた。そこで、「都市や地域において緑環境による景観形成に関する具体的な知識、理論と技術力をもって、すぐれた景観をそなえ、安らぎと活力に満ち、自然と調和した緑豊かな都市や地域を市民、国・地方公共団体、NPO法人、関係諸団体等と共に実現していく高度専門職業人」を育成するために、2年間の研究科を設置することとした。入学定員は20名で、めざす人材像は、①緑環境と人間活動との関係を正しく把握・分析・評価し、それによってすぐれた景観を創出・再生・保全管理して最大限に機能発揮できる状態を現場で実現できる 保全管理の専門家 ②地域が求める緑環境景観の役割を的確に捉えそれを実現するデザイン力を持ち、その機能が最大限に発揮される活用プランをまとめあげていく活用デザインの専門家 ③緑環境に関する施策を企画立案し、それを市民等と協働で実現する施策を展開していく 施策マネジメントの専門家である。



## 洲原神社の社叢についてーブッポウソウの森

話題提供 跡部 亮一（洲原神社宮司）  
コメンター 林 進（社叢学会中部支部長、岐阜大学名誉教授）

昨年(2008)7月、愛知県から岐阜県を抜けて富山県へ到る東海北陸自動車道が全通したことに伴って、郡上八幡・白川郷・高山といった昔の奥地が、名古屋圏の身近な存在として急に浮かび上がってきた。岐阜県美濃市は、「徹夜踊り」で有名な郡上市の南にあって、「美濃和紙と『うだつ』の上がる町」として、中心街が1999年に重要伝統的建造物群保存地区に指定され、観光地として有名になりつつある。

うららかな春の日差しの中で、満開の紅梅を愛でながら、拝殿での正式参拝。その後、ご好意で回廊の扉から中門の中に入れていただき、桧皮葺の屋根の改修工事が進められている厳かな3棟の本殿を間近に見ながら説明に聞き入った。時間を忘れるほどの感動の後、社務所で宮司の講話を拝聴し、その後、外苑となる鶴形山(300m)に登った。

### 正一位洲原神社

洲原神社は白山神社の前宮である。白山信仰は、泰澄大師が主に養老年間に広めたもので、2,700社余りある全国の白山神社はどこでも養老年間の創建となっている。明治期に加賀の白山登山口(馬場)を治める白山比咩神社が総本社とされる前は、越前馬場(勝山市)の平泉寺と美濃馬場(郡上市白鳥町)の長滝寺の三者が、白山の管理を巡って主導権を争った歴史があり、白山神社の数は美濃地域が断然勝っている。

昔の洲原村は村民全員が氏子で、御師として「お洲原まいり」の「洲原講」の案内をする傍ら、4月8日の春の大祭では、本殿に収められた神輿を遠くの「神輿休め」まで担いだり、11月30日の大祭では、神迎え神事として氷取り(みそぎ)を行っていた。農業の神様として尾張・三河地方でも崇敬されており、洲原神社の「お砂」を田畑に撒いたり、「田のお札」と「畑のお札」を竹に刺して田畑に祀るという信仰が各地に残っている。

平成13年から本・東・西の3殿が岐阜県の重要文化財に指定され、順次、屋根の葺き替えを行っている。総工費1,050万円で、県の補助金が上限の500万

円、美濃市から250万円で、残りの300万円が地元負担である。重厚な楼門も傾いており、境内修復のための算段が必要である。

### 天然記念物・洲原神社社叢

奇岩が立ち、玉石の河原が広がる長良川に接し、老杉・古桧が生い茂る内苑と外苑の鶴形山を含めて約15万坪が洲原神社社叢として県の天然記念物に指定され、同時に緑地環境保全特別区域にも指定されている。

昭和10年に、文部省から天然記念物洲原神社仏法僧繁殖地として指定されて、五月上旬にはブッポウソウが熱帯から飛来して、楼門横の老樹に営巣していた。昭和39年(1964)の岐阜国体開催に伴う国道156号線のバイパス拡張工事で以降は自然環境が悪化して、営巣が見られなくなった。

鶴形山は、鶴が翼を広げた形をしており、柔らかな土の道が続く、膝にやさしいハイキングコースになっている。途中の岩門を潜り抜けると別世界で、滝の落ちる音・ツバキの大木・コウヤマキの林など「天然記念物鶴形山暖地性植物群」の中を頂上まで飽きることなく楽しむことができた。不思議にも玉石が敷かれた頂上からは、はるか下に長良川が見えて、絶景であった。(文責：岡村 穰)



## 次回予告【第22回中部定例研究会】

- ◆日 時：2009年6月20日(土) 13:30~16:00
- ◆集合場所：熱田神宮会館ロビー(名古屋市熱田区神宮1-1-1 TEL052-671-0010)
- ◆テーマ：熱田の森と創祀千九百年造営事業について
- ◆話題提供：調整中
- ◆コメンター：未定

## 社叢管理手法の確立を目指して 4か所の社叢で「管理実験」 今年度も「地球環境基金」助成金で

社叢学会では昨年度、独立行政法人環境財政保全機構地球環境基金部より助成金を得て、「市街地における社叢（歴史的緑地）管理の実態調査と管理手法の確立」事業を進めてまいりましたが、今年度も引き続き助成金を得て、同事業に取り組んでいくことになりました。

昨年度は、社叢管理の実態を知るための神社を対象としたアンケート調査とヒアリング調査を行ったほか、社叢管理技術などの情報提供や、管理技術を学ぶセミナーを開催するなど、社叢を管理育成することができる人材づくりに取り組んできました。また、全国的に広がりを見せているカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害木伐採後の社叢修復のあり方を検証するために、11月に伏見稲荷大社に社叢修復実験区を設け、地域の植生に即した美しい社叢の復活を目指して実験に取り組んでいます。

今年度は、① 伏見稲荷大社の実験区における育苗や植栽による社叢修復 ② 地域住民に親しまれ、憩いや環境教育の場ともなる社叢づくり(名古屋市内) ③ 社叢への有害植物侵入対策の立案と除去作業(千葉県内) ④ 社叢の落枝・落葉の腐葉土化促進実験(秩父市内) の4事業を行う予定で、いずれも、社叢管理における問題点の解決をめざすものです。

具体的な進め方は、理事を始めとする社叢インストラクターが中心となって検討してまいります。各地での植生調査や、有害植物除去作業など、多くの人手を要する場合も出てくると思われます。今後、近隣の会員の皆さまを中心に手助けをお願いすることがあろうかと存じますが、ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

- 平成21年度(2009年4月～2010年3月)の会費の振替用紙を同封いたしました。学会活動を円滑に運営するためにも、会費の納入方、よろしくお願いいたします。入金の確認をいたしましたら、会員証をお送りいたします。
- 関東支部の電話番号が変わりました。**080-1514-5032** です。お間違えのないよう、お願いいたします。
- 年次総会・研究発表会・シンポジウムの詳細は別記のとおりです。懇親会、見学会など、今年も盛りだくさんです。新緑鮮やかな白山でお会いしましょう。

## 編集後記

あつ～い日があったり、さむ～い日があったり。ひいてしまいましたよ風邪。火曜日に休んで、水曜日にも休めば治るんだろうなあと思いつつ、経理書類の整理やら、総会準備やら、はたまた助成金の行方も気になるし。。。で、出勤したのが間違いの始まり。。。木曜日にも休んでしまいました。てな訳で、想定外の仕事の遅れ。

今年は総会が早いから「鎮守の森だより」も連休前には発送を終わってなきゃいけないし、経理書類も早く監事のところに持っていかなきゃいけないし。な～により大切な会費の振替用紙の準備もしなきゃいけないし、助成金をいただけることになったので、予算の組み替えもしなきゃいけないし。。。風邪でぼ～とした(風邪でなくてもやんって?)アタマにはカコクでございます。

え、フォトコンテストの審査委員会はいつやるってか?! (藤岡 郁)

## 掲 示 板

## 『原稿募集!』

『社叢学研究』第7号への投稿：論文、研究ノート、資料紹介や調査報告(各400字詰原稿用紙40枚以内)と「鎮守の森の活動報告」(右記参照)を募集いたします。締め切りは、いずれも10月30日(金)必着。

\* 書評欄では会員の皆さま方の著作を取り上げていきます。出版された方は、ぜひご献本下さい。

### 「鎮守の森の活動報告」

祭、音楽会、調査などの活動、抱える問題点などを1,200字程度でご報告下さい。手書きでも結構です。写真やイラストなども、お添え下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号

TEL 075-212-2973 FAX 075-212-2916

URL <http://www2.odn.ne.jp/shasou/> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)

社叢学会関東支部 TEL080-1514-5032 E-Mail [shasou@macrovision.co.jp](mailto:shasou@macrovision.co.jp)